

## 【設定・操作方法】 闇夜からの手招き サンプル版ダウンロード、誠にありがとうございました。

### ■ Acrobat Reader 4.0(4.05a)をご使用の方へ……

本書発行現在、Acrobat Reader の最新バージョンは、Acrobat Reader 6.0(無償)です。

※小社の電子書籍は全て、Acrobat Reader 4.0 (4.05a) ~5.1 のいずれでもご覧頂けますが (3.0は不可)、バージョン5.1は軽快なインターフェースに加え、描画品質がかなり向上しています。(6.0は動作未確認です)

お使いのパソコンシステム環境が許せば、5.0.5への無償バージョンアップをご検討ください。

詳しくは、当サイト <http://www.dex-one.com/> の Acrobat Reader ロゴよりリンク先ページをご覧ください。

### ■ PDF操作……

進む=右あるいは下矢印キー or Enter(return)キー

戻る=左あるいは上矢印キー

画面表示速度や色表現は、あなたのパソコンスペック(能力)やモニターに依存されます。

### ■ 全画面を解除するには……

Windows ▶ [Ctrl+L]

Macintosh ▶ [Command+L]

※但し、一度全画面を解除し再度上記操作を行なうと全画面にはなりません。写真画質が荒れてしまいます。全画面を解除した後、もう一度バック黒でご覧になりたい場合は、一端ファイルを閉じて再度開いてください。

### ■ 終了するには……

Windows ▶ [Ctrl+Alt+Delete]

Macintosh ▶ [Command+Q]





## INDEX

C O N T E N T S

### [短編寓話集 一闇夜からの手招き一]

ユディト/Judith ————— 006

■ 敵将フォロフェルネスを見事討ち取ったユディトは、震える手でその首を掴み、ひそやかに故郷ベツレムの街へ帰っていった。(旧約聖書外伝より)

セイレン/Siren ————— 017

■ セイレンの魔女。その美しい歌声は嵐を呼び、船乗りたちを海の底へ引きずり込むという。

猫又/Nekomata ————— 028

■ あちしはね、今日のこの日を長いあいだ、ずっと待ち続けていたんだ……  
女はすいと視線を逸らし、遠くを見つめながら独り言のようにつぶやいた。

ヘンゼルとグレーテル/Hansel and Gretel ————— 041

■ その家は、煙突から「あまあい香り」のする煙を出していた。  
屋根は固焼きパンで葺かれており、壁はふわふわのスポンジケーキ、そしてなんと、ドアはとろけそうなチョコレートで出来ていた！(グリム童話より)



ドイツ公国のその年の飢饉は凄まじいものだった。

日照りが続き、作物は育たず、人も家畜も誰しものが飢えていた。道端には行き倒れた人々の死骸が点々と転がり、そこから中に肉の腐る嫌なにおいをふりまいていた。毎日降り注ぐ太陽の熱い光で、屍肉は発酵を促進され、肉にたかる蠅だけがブンブンと元気に飛び回っていた。

いつの時代も同じように、飢饉の最初の犠牲者は老人と、子供達だった。体力のない老人はバタバタとまっ先に倒れ、ミルクのあてがいのない赤ん坊は母親の腕の中で、泣き声もあげずに死んでいった。

街は飢えた浮浪児で溢れ、親元にいる子供達も、運の良い場合は遠国の領主や売春宿に売られていったが、思いあまった両親から口減らしのために“間引き”されることも珍しい事ではなかった。子供も大人も家畜でさえも、生きのびるために皆がギラギラした目で食べ物を求めていた。

とある村の、森のはずれに住むきこりの一家にも飢饉は等しく襲いかかっていた。

戸棚にはひとつぶの麦もなく、猫の額ほどの自家農園に来年蒔くはずの種イモや種麦ですら食べ尽くしていた。一家は森に入り、山菜や木の実を取って生活をしのいでいたが、それとて一家四人……きこりの亭主とおかみさん、ヘンゼルとグレーテルの兄妹二人……の口を満たすには十分ではなかった。

「あんた、もうそろそろ潮時なんじゃないのかい。これ以上あの子達を喰わせる事は出来ない。かわいそうだけれど、今度森に入った時に、子供達は置いていこう」

ある夜、子供達が寝静まった後におかみさんが、森で採取した枯れ草で糸を紡ぎながら亭主に話しかけた。

「このままだと一家心中になっちゃうよ」

このおかみさんはまだ若く、きこりの亭主の前の妻が亡くなったあとに嫁いできた、後妻だった。子供達は前妻の残した“忘れ形見”であったが、亭主は彼女にとっても惚れていたし、彼女に逆らうのも怖かった。

「そ、そうだな……、じゃあ今度森に入った時に、子供達は置いてこよう。森は深いし、夜になれば狼が子供達を喰ってしまうだろう」

伏目がちに、ほそほそと亭主がつぶやいた。

ヘンゼルは薄く開けられた扉ごしに、夫婦の会話を盗み聞いていた。

なんと恐ろしいこと！ヘンゼルは身がすくみ、ガクガクと足が震えるのを感じた。なんとかしなくては。

しばらくじっと考えたあと、ヘンゼルは夫婦に気付かれないように裏口の扉をあけて外へ出て、手ごろな大きさの白い石をポケットいっぱいにかき集めた。ポケットがずっしりと石で重くなると、ヘンゼルは満足して部屋に戻り、すやすやと寝息をたてている妹グレーテルの眠るベットに潜り込んだ。

ヘンゼルとグレーテルの運命は……。続きは製本版でお楽しみ下さい。

■ 製品版のお求め、心よりお待ちしております。

全画面のままであれば、下記 [全画面解除] をクリック後、dex-oneサイトへ

[全画面解除]



<http://www.dex-one.com/>

## 闇夜からの手招き —サンプル版—

古田真理子 短編寓話集 Fable collection of short stories

文・画／古田 真理子

発行所／有限会社バディ ライヴ デックスワン事業部

〒162-0821 東京都新宿区津久戸町4-1ASKビル2F tel. 03-3260-7461

<http://www.dex-one.com/> fax.03-3260-7552

©2003 mariko furuta

本書の内容、画像一切の複写複製（コピー）・転載・転訳など著作権に関わる行為は、これを固く禁じます。

禁無断転載 production in Japan